

児童の共存と自立をめざすユニバーサルデザインを取り入れた学校経営

本校のユニバーサルデザイン

学力の優劣や発達障がいの有無にかかわらず、稲羽西小学校のすべての子供が、

楽しく「わかる・できる」を目指してすべての教育活動において工夫・配慮する

学校経営のあり方である。

教師の構え

教師は、学級経営や授業づくりの計画段階から、社会生活などに困り感をもっている配慮を要する児童への支援を、あらかじめデザインする事前対応の理念・方法をもつこと。

KEY POINT

- 社会生活などに困り感を抱く児童には、「ないと困る支援」
- どの児童にも「あると便利な支援」

全員が「わかる・できる・楽しい」を実感

- 児童の困り感を徹底分析
- 児童の困り感に寄り添えるための学習教材づくりの推進

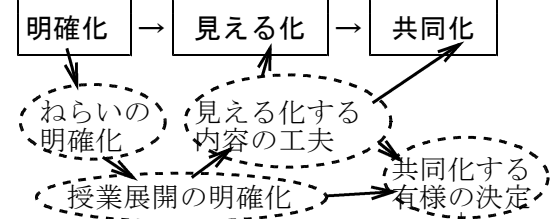
児童一人一人が安心して、自分らしさを発揮できる学校

学習指導におけるユニバーサルデザイン

授業におけるユニバーサルデザイン化

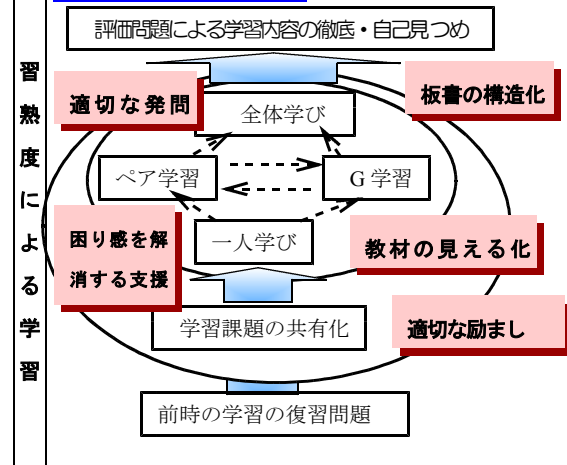
喫緊の課題：授業改善
困り感を抱く児童に対応

改善のポイント



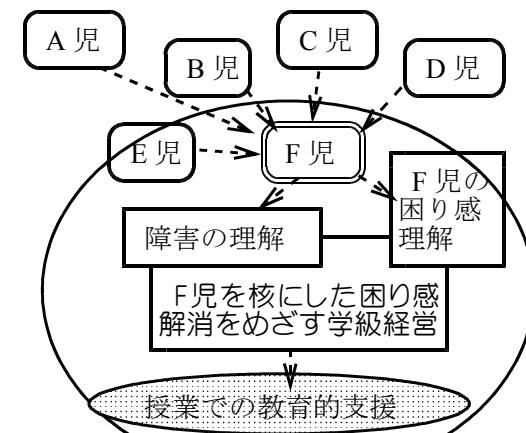
活動の焦点化

1 単位時間の定着化



学習支援のユニバーサルデザイン化

各学級：困り感を抱く児童の実態把握



対象児にとってわかりやすい授業づくり

- 学習目標の明確さ
- 学習内容の明確さ
- 発問の明確さ
- 板書の構造化
- 活動の明確さ
- 個別支援の明確さ

他の子にもわかりやすい授業

支援にかかわる留意

指導の工夫 → 個別の配慮

まず、指導の工夫ありきで考える

SSTの日常化

すべての学級で

- すべての学級で朝の会で5分間のSSTを実践

全校の集会等で

- 校長を始めとする集会で話す教師は、SSTを取り入れて進行する
 - 具体物提示
 - ロールプレイング
 - イラスト
 - PPTの活用

個別指導のSST

- 児童の困り感に個別に対応する場合は、児童に判断を求めて善し悪しの判断を指導する。
 - 見える化(イラスト等)
 - ロールプレイング等

職員のSST研修の徹底

- 「聞ける教師」児童の頷きを引き出す等
 - 児童に共感する
 - 児童の願いを引き出す
 - 児童の方向付け
 - 児童に自信を持たせる

学習環境・生活環境のユニバーサルデザイン化

KEY POINT

見える化

シンプル化

構造化

- 見える化**
- 教室中での約束 教室内の環境
 - 児童の目で見えてすぐに判断できる掲示

- シンプル化**
- 瞬時に見て分かる
 - 余分なものを断捨離

- サイレント化**
- 静寂さを徹底
 - 「はい」の声等

- 構造化**
- 時間の構造化を徹底 (あと〇分) (〇分がんばる)